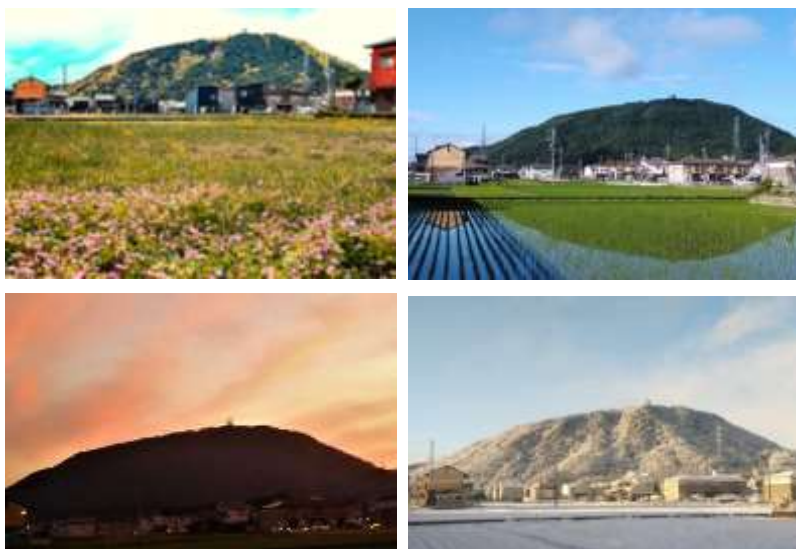


歴史に学ぶ、自然に学ぶ。
歴史を活かす、自然を生かす。

まちづくりの芽

ファイル 6 歴史・自然



▲頼山陽が命名した、四季折々の姿を見せる眉山。



鎧塚古墳 前方後円墳(古墳時代中期・4世紀後半)、墳長 82m、眉山山頂(標高 231m・栗野西 8丁目の標高 24m・標高差 207m)に位置する。大和朝廷に仕え、この地域を支配した牟婁都国造(むげつのくにのみやつこ)※の墓とも言われます。また、南麓の岩崎古墳群は、古墳時代後期の横穴式石室(円墳)で、同族の墓と考えられています。



◀鎧塚古墳の出土品



◀大宝2年(702)の御野国山方郡三井田里(栗野・三田洞・岩崎など)の戸籍を収める。御野国戸籍は現存する戸籍のなかで最も古い。本巻は巻首部分が原表紙・革紐ともに残っており、貴重。

正倉院ホームページより

<https://shosoin.kunaicho.go.jp/treasures/?id=0000011085&index=61>

【現況・課題と解決の方向性(案)】

地域のシンボル・眉山。頼山陽が命名した秀麗な名山は、徳島市の観光資源の眉山に勝ることはあっても、決して劣るものではありません。

また、標高差 207m の山頂に、墳長 82m、琴塚古墳より以前に築造された前方後円墳は、急峻な山頂に位置する全国屈指の古墳です。

壬申の乱の際、大海人皇子(のちの天武天皇)に派遣された国造の牟婁都の墓とも言われます。

また、わが国最古の戸籍「三井田里(みいだり)戸籍」が正倉院に伝わっているという特筆すべき地域でもあります。

一方、住民・市民に、これらの事実が認識されていないこと、そして全国の同規模、同程度の標高にある他の古墳が国指定史跡となっていることを考えると、地域ばかりか市の歴史資源として十分な評価が与えられているとは言えません。

畜産センターの再整備計画、東海環状自動車道 IC の供用開始を踏まえ、地域の拠点資源にスポットを当てること、地域と市のまちづくり・魅力づくりに大きな意義を有するものと考えます。

まずは、これら歴史等資源の情報を早急に整理し、広く発信する必要があります。

加えて、栗野の自然環境・里地里山としての意義を継承することも必要です。畜産センター再整備に関連し、市と協働して緑地保全、里山の回遊性を確保することが望まれます。



▲眉山の南麓にある岩崎1号墳はじめ、岩野田、岩野田北地区には、いくつかの古墳(横穴式石室)が確認されている。